

## 第3学期終業式 式辞要旨 H30.3.20

1年間の終わりの節目の日がやってきた。

今日は、この1年間、私が皆さんに話してきたことを振り返ってまとめとしたい。

この1年間で生徒全員の前で話をした機会は12回あった。まず12回中7回にわたって触れたのは、当然のごとく『近江商人の「三方良し」の教え』である。

色々な話をしている、結局は「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」で何事も説明がついていたような気がしている。

この三つが揃ってこそ、社会に受け入れられる。どれか一つでも欠けると、暫くは上手くいっても、そのうちに化けの皮がはがれて破綻するものだ。これからも皆さんの耳に残るよう言い続けたい。

次に、12回中6回触れたのがAI人工知能についてである。「AIに負けるな」という話を何度もしてきた。君たちの生きていくこれからの時代は、多少難しいことでも、作業や知的考察などはAIがやってくれるだろう。これからはAIに出来ないユニークでオリジナリティーがあって、しかも人の心を酌んだ言動が大切になる。

先日、新聞を読んでいたら、世界の先進国の中で、日本ではAI導入が遅れているらしく「AI後進国日本」と言われていることを知った。ドイツのBMWとフォルクスワーゲンは、今から僅か3年後の2021年に完全自動運転の自動車を実用化しているのに、日本ではそれに遅れること4年の2025年を目指しているらしい。

また、アメリカでは企業のAI導入率が13%を超えていて、ドイツでも5%程度なのに、日本では2%にも満たない状況だそうだ。

日本政府や大企業は、このままでは大変なことになると、AIの研究普及に力を注ぐようとしているので、普及が一気に加速するだろう。10年後には、運転席に小学生が乗っている自動車が町中を走っているのは夢物語ではないと思ったりもする。

2学期の終業式では、「頭が良い」とは「先が読める」ことを意味するのではないかということをお話したが、自分の意見をもって先を読んで行動できる人でなければ成功は望めないのではないかと思っている。

具体的に言うならば、何らかの意見を求められた時に、直ぐに「わかりません」と答えることは許されない時代が来ているということだ。これまで学校ではそうやって逃れることが出来てきたのだろうが、社会に出たらそうはいかない。我々教員は、君たちが「考えることから逃げる癖」をつけないよう、これからも授業やテスト、そしてすべての教育活動の中で、君たちに「考えること」を求めていく。難しいことを考えさせられても、簡単に逃げずに苦しみながらも自分の意見が言える人に育ててほしい。

結局、1年間の私の話をまとめると、近江商人の「三方良し」と「AIに負けるな」

ということになるだろう。

さて、もう一つ話をしておきたい。卒業式の式辞では、「グッド・ルーザー」すなわち「良き敗者」の話をした。スポーツに限らず、誰もが勝ち続けたり、誰もが常に上手くいくことはない。負けたとき、上手くいかなかったときこそ「人を咎めず 我が誠の足らざるを尋ぬべし」と西郷隆盛が言うように、人のせいにせずに、諦めることなく努力する人間であってほしい。大人になったのに、上手くいかないときに「ふてくされる」と、それで総ては終わってしまうのだと思い知らねばならない。

NHK 平昌オリンピック・パラリンピックのテーマソングであるセカイオノオワリの「サザンカ」の歌詞にあるように、「いつだって物語の主人公が立ち上がる限り 物語は続くんだ」と信じたい。

この「サザンカ」の歌詞の中で解釈が難しいと思うのが、「いつだって物語の主人公は笑われる方だ 人を笑う方じゃない」というところだろう。私なりの解釈になるが、作詞したフカセさんとサオリさんは、人に笑われたりバカにされた辛い体験を経た上で、今の成功をつかんだのではないのかと想像している。メジャーなプロミュージシャンになると周囲に言うところ、「そんなのは無理だと笑われ」「バカにされ」たことがあったんじゃないのかなあと想像している。

目指すものがあれば堂々と口にして、人の前で恥ずかしがらずに、下手さ加減を見てもらえば良いじゃないか。どんな成功者であっても最初から上手な人などいるわけがないのに「笑われたくない」とか「格好悪いのはいやだ」とか言って、こそこそかくれてやっている人に成功などあるわけがないのだ。

徒然草の150段で吉田兼好さんは、「何かの芸事で上達しようと思ったら、下手なときから上手な人に交じって、笑われようがバカにされようが、そんなことを恥じることなく、堂々と修業しなければ上達は望めない」と言っている。

笑われたくなくて、上手になってから人前に出ようなんて考えていて、成功するわけがないとフカセさんとサオリさんは言いたかったんじゃないだろうか。

笑われたって良いじゃないか、バカにされたって良いじゃないか、コツコツ努力して、くじけなければ、何かがつかめるはずだ。そのことを「サザンカ」という曲が教えてくれていると私は思う。

4月には、皆さんはいよいよ2年生、3年生に進級する。

” その気になろう ” ” 笑われたって良いじゃないか ” ” バカにされたって良いじゃないか ” 「笑われる方が主人公」なんだよ。

最期にいつも言うが、道路上は命がかかっている。交通事故にはくれぐれも気をつけて、4月9日に元気に登校してくれることを願っている。